

1 はじめに

小学校指導要領解説生活科編の目標には、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と記されている。「具体的な活動や体験」とは、見る、聞く、触れる、作る、遊ぶなどの活動のことである。児童が身近な自然と直接関わる活動や体験を通して、児童が自分の思いや願いをもち、意欲的に取り組めることができるようにするとともに、上記のような活動の楽しさや満足感、達成感を実感できるようにすることが大切である。

2 実践事例

(1) 単元 あきのおもちゃをつくろう

(2) 学習内容

① リース

朝顔のつるを使って、リース作りを行った。児童一人一人が、朝顔のつるを支柱からはずし、つるを丸めて形作りをした。なかなか支柱からはずすことができず、苦労している児童が多かった。



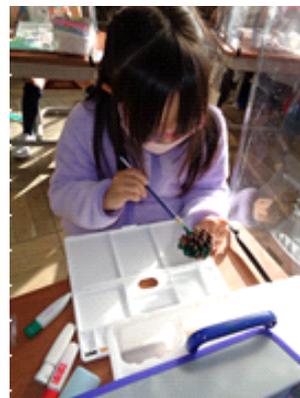
丸く形作ったリースに飾り付けを

行った。極力秋の物で飾りをつけるようにしたので、児童はすすきをハートや丸の形にしたり、松ぼっくりに赤い実をつけたり、工夫をして取り組んだ。

苦労した分、出来上がったときは達成感で満足な顔をしていた。

② 松ぼっくりのクリスマスツリー

松ぼっくりを使って、クリスマスツリー作りを行った。絵の具で様々に色を塗り、「雪をつけるんだ。」と白色を重ねたり、上と下で色を変えたり、思いや願いを膨らませながら取り組むことができた。



③ どんぐりごま

大きなどんぐりでこまを作った。どんぐりに穴を開けるために、きりなどを使った。

使ったことがない児童が多かったが、約束や使い方を守って、安全に使うことができた。どんぐりのどの場所に穴を開けると回りやすくなるか、楊枝の長さを変えるとたく

さん回るか考えている児童もいた。その様子を見て、同じように穴を開けたり、さらによく回る方法を考えたりしていた。



④ マラカス

ペットボトルにどんぐりを入れて制作した。どんぐりの大きさや量が変わると音に違いが出ることに気付いたり、振り方を変えるとどんぐりの動き方に違いがあることに気付いたりしていた。

遊ぶときには、友達と一緒に踊り方を考えたり、振り方を工夫したりして楽しんでいました。



⑤ まつぼっくりのけん玉

紙コップ、たこ糸、松ぼっくりでけん玉を作った。たこ糸を穴に通して結ぶことが難しく、悪戦苦闘していた。結び方を教えてもらい結べるようになって喜んでいる児童が見られた。また、糸の長さを変え、難易度を「簡単」「普通」「難しい」の3段階にする工夫をしていた児童もいた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・自分たちが育てた朝顔や拾ってきた秋の物を使うことで、季節を味わいながら制作活動に意欲的に取り組むことができた。
- ・作ったり遊んだりする活動を楽しむ中で、失敗や成功体験を繰り返しながら、知的な気付きを引き出すことができた。
- ・子供達に材料を集めるよう呼びかけるだけでなく、教師もどんぐりや赤い実などを大量に準備したため、思いや願いを膨らませながら作製することができた。
- ・友達と一緒に遊ぶことで、ルールを相談したり、踊りを考えたりなど、児童同士で工夫して遊ぶことができ、お互いのよさにも気付くことができた。

(2) 課題

- ・おもちゃや飾り作りが、教科書や提示した作品に偏ってしまった。
- ・公園へ秋の物を拾いに行く計画を立てた後に、公園の清掃が入ってしまったため、秋のものが極端に減ってしまった。時期を考えなければならないと思った。
- ・今年は新型コロナウイルス予防対策で、友達と一緒に制作することをしなかったため、友達との関わりが希薄に感じた。